

時間割・研究指導教員及び修了要件

1年前期	月	火	水	木	金	1年前期	土
6時限(A)	医療倫理学特論	医療薬学研究方法特論	東洋医療学特論	臨床分析化学特論	応用薬理学特論	1時限(A)	医薬分子機能化学特論
6時限(B)			臨床薬学特論Ⅰ	フィジカルアセスメント特論	感染症治療薬学特論	1時限(B)	臨床薬学特論Ⅱ
6時限(A・B)	特別研究					1時限(A・B)	
1年後期	月	火	水	木	金	1年後期	土
6時限	免疫化学療法特論	薬品作用学特論Ⅰ	薬品作用学特論Ⅱ	医療公衆衛生薬学特論	医療薬学基礎演習Ⅰ	1時限	
6時限	特別研究					1時限	

2年前期	月	火	水	木	金	2年前期	土
6時限(A)	医療薬学基礎演習Ⅱ	医薬分子機能化学特論	東洋医療学特論	臨床分析化学特論	応用薬理学特論	1時限(A)	
6時限(B)		臨床薬学特論Ⅱ	臨床薬学特論Ⅰ	フィジカルアセスメント特論	感染症治療薬学特論	1時限(B)	
6時限(A・B)	特別研究					1時限(A・B)	
2年後期	月	火	水	木	金	2年後期	土
6時限	免疫化学療法特論	医療薬学基礎演習Ⅲ	薬品作用学特論Ⅱ	医療公衆衛生薬学特論	医療薬学基礎演習Ⅰ	1時限	薬品作用学特論Ⅰ
6時限	特別研究					1時限	

3年前期	月	火	水	木	金	3年前期	土
6時限(A)	医療薬学基礎演習Ⅱ	医薬分子機能化学特論	東洋医療学特論	臨床分析化学特論	応用薬理学特論	1時限(A)	
6時限(B)		臨床薬学特論Ⅱ	臨床薬学特論Ⅰ	フィジカルアセスメント特論	感染症治療薬学特論	1時限(B)	
6時限(A・B)	特別研究					1時限(A・B)	
3年後期	月	火	水	木	金	3年後期	土
6時限	免疫化学療法特論	医療薬学基礎演習Ⅲ	薬品作用学特論Ⅱ	医療公衆衛生薬学特論	医療薬学基礎演習Ⅰ	1時限	薬品作用学特論Ⅰ
6時限	特別研究					1時限	

4年前期	月	火	水	木	金	4年前期	土
6時限	特別研究	医療薬学総合演習				1時限	
4年後期	月	火	水	木	金	4年後期	土
6時限	特別研究					1時限	

【医療薬学研究科医療薬学専攻 開講時間割表】

1年次前期には、(A) または (B) のどちらかの必修科目を必ず履修すること。(A) (B) は同時開講される。

【研究指導教員の決定】

博士論文の作成は、論理的思考力を培い医療薬学における総合的な知識の活用能力を増大させることを目的としており、本研究科が目指す有能な指導的立場に立てる薬剤師養成に不可欠なものである。さらに、特別研究で作成する博士論文は、それ自体、社会への貢献において学術的な新規性が求められる。そこで入学時の研究指導担当教員の決定においては、学生が将来の進路に捉われることなく、純粋な学術的興味に従い、各研究指導担当教員が取り組んできたこれまでの研究テーマを参考にして討議を重ねることにより決定する。

【学位審査体制・修了要件】

学位審査体制は、予備審査、博士研究成果発表会、本審査、最終試験からなる。本研究科課程の修了要件としては、4年間の学修期間をもって研究科が指定した所定の単位（30 単位以上）修得を満たし、かつ博士論文本審査および最終試験に合格することとする。学位申請者は、本研究科在学中に博士論文として本研究科が認定する権威ある学術雑誌に1編以上論文発表すること。または当該論文の掲載が受諾されている場合はこれを可とすることができる。当該論文は単著または学位申請者が筆頭著者でなければならない。本研究科が認定する「権威ある学術雑誌」とは、厳密な査読制度を有するインパクトファクター(IF)を持つ国際英語学術雑誌を基準とする。その他の学術雑誌（査読有）については、当該論文投稿前に研究科委員会において別途審議し認定する。

予備審査：研究科委員会が委嘱する予備審査委員が、学位申請者の出席を求め非公開で予備審査を行う。予備審査委員は、主査1名及び副査3名を原則とする。研究指導教員は、主査になることはできない。予備審査において、予備審査委員は博士論文の内容審査をおこなうと共に、学位申請者に当該論文内容のプレゼンテーションを課し、研究の新規性・社会貢献(60%)、プレゼンテーション能力(20%)、論理的思考能力(20%)等の評価を行う。

博士研究成果発表会：研究科委員会で、予備審査委員主査の報告に基づき本審査に付すことが承認された場合、研究科長は、予備審査合格者による博士研究成果発表会を公開で行う。

本審査：博士研究成果発表会終了後、研究科長は研究科委員会を招集し、同研究科構成員の3分の2以上の出席を得て本審査を行う。本審査では、研究の新規性・社会貢献(60%)、プレゼンテーション能力(20%)、論理的思考能力(20%)等を総合的に評価して可否を議決しなければならない。研究科委員会での本審査合格の議決は、出席者の3分の2以上の同意を要する。

最終試験：本審査の前までに、科学領域英語の最終試験に合格していなければならない。

最終試験は、第1部（英語読解問題）、2部（英作文問題）からなる。第1部は2年次より、第2部は予備審査申請後より受験可能であり、合格後の有効期間は、第1部は3年とし、第2部は1年とする。

博 士 論 文

研究計画書・研究進捗状況報告書・博士論文のあり方

- 1) 様式・・・ワープロソフトにより別紙の様式で作成して下さい。
- 2) 研究計画書の字数・・・1000 字以内で作成して下さい。
- 3) 提出方法および提出先・・・署名捺印の上、教務課に提出して下さい。

※ 作成にあたっては、研究指導教員と十分に内容を協議の上提出して下さい。

博士論文のあり方について

本博士課程在学中に博士論文として本研究科が認定する権威ある学術雑誌に1編以上論文発表すること。または当該論文の掲載が受諾されている場合はこれを可とすることができる。当該論文は単著または学位申請者が筆頭著者でなければならない。本研究科が認定する「権威ある学術雑誌」とは、インパクトファクター(IF)を持つ国際英語学術雑誌を基準とする。その他の学術雑誌（査読有）については、当該論文投稿前に研究科委員会において別途審議し認定する。

博士論文提出までの流れ

1. 「研究計画書」1部の提出（1年前期初旬）
2. 「研究進捗状況報告書」1部の提出（2年～4年の前期中旬）
3. 学位審査申請時の提出書類（4年次の11月末日）
 - ①「研究進捗状況報告書」6部
 - ②「学術雑誌発表論文（最終稿 A4 原稿と別刷り）」6部
※オープンアクセス雑誌の場合は別刷りのみ6部
 - ③「学術雑誌掲載証明書」1部
 - ④「学位授与申請書」1部
 - ⑤共著者の「同意承諾書」1部

担当	項目		秀でている	基準に達している	基準要素を獲得している	基準に達していない
A 指導教員（学位申請の是非を判断）	データ、資料の管理・保存		オリジナルデータは、指導教員等の管理する公的な場所に適切に保存され、論文提出後の照会や検証に即時対応可能である	オリジナルデータは、学位申請者個人によって確実に保存されており、論文提出後の照会や検証にも対応可能である	適切に保存できていないオリジナルデータが一部存在するが、それを除外しても同じ結論を導き出せる	結論を導くためのデータが適切に保存できていない
	倫理性	事前承認	該当なし	研究に関わる倫理上の問題について、十分に考慮し、該当する倫理委員会の承認等、必要な対応を済ませた上で研究活動を行っている	該当なし	研究活動の一部もしくは全てにおいて、研究に関わる倫理上の問題につき該当する倫理委員会の承認等、必要な対応がなされていない
		剽窃	該当なし	論文中に剽窃部位は無く、他の論文からの引用も適切な方法によって行われている	該当なし	論文中に明らかな剽窃箇所が認められる使用されている図表に、無断引用されたものがある 以前発表したデータの使い回しがある
	論文作成能力		指導教員等がほとんど介入することなく学位論文を作成できる	学位論文作成にあたり、指導教員等による多少の介入を要した	学位論文作成にあたり、指導教員等の大幅な介入を要した	学位論文を作成できていない
主査・副査（予備審査にてB・C・Dをすべて評価）／医療薬学研究科担当教員（原則として口頭発表にてC・Dを評価）	B 新規性・社会貢献性（6割）	学位論文の水準	インパクトファクター（IF）1.0以上の英文雑誌に、筆頭著者として原著論文を発表した（15点）	IF 1.0未満の英文雑誌、またはそれと同等の価値があると医療薬学研究科委員会にて認定された雑誌に、筆頭著者として原著論文を発表した（10点）	何らかの活字媒体に、筆頭著者として原著論文を発表した（5点）	筆頭著者として論文を発表していない。または、筆頭著者として現在論文を投稿中だが、その採否が決定していない
		医療薬学分野における重要性	研究で明らかにする内容が明確に示され、その研究成果が医療薬学分野における課題の解決に直結している（10点）	研究で明らかにする内容が明確に示され、その研究成果が医療薬学分野における課題の解決につながり得る（7点）	研究で明らかにする内容は明確であるが、その研究成果が医療薬学分野における課題の解決にあまり寄与しない（2点）	研究で明らかにする内容が不明確である その研究成果が医療薬学分野における課題と関連しない
		オリジナリティ	関連する先行研究を網羅した上で、当該論文のテーマの独創性を明確に示している（10点）	関連する先行研究に当該論文と類似するテーマがないわけではないが、当該論文には独創性が認められる（7点）	すでにほぼ同様のテーマの先行研究があるが、独創性を有する部分もある（2点）	すでに、同様のテーマの先行研究が存在しており、独創性は認められない
		研究方法の妥当性	研究目的を達成するために最もふさわしいと考えられる研究方法を選択している（5点）	研究目的を達成するのに適していると考えられる研究方法を採用している（3点）	研究目的を達成するのにふさわしい研究方法であるか些か疑問である、または他にもっと適切な方法がある（1点）	研究目的と研究方法が合致していない
		研究目的と結果との整合性	研究目的を完全に満たす研究結果が示されている（10点）	示された研究結果は、研究目的を概ね充足している（8点）	示された一部の研究結果が、研究目的から逸脱している（2点）	示された研究結果が、研究目的と乖離している
		解釈	参考文献や得られたデータに基づいて客観的で公平な解釈をおこなっており、かつ予想や仮説に一致しないデータにも論理的な解釈を加えている（10点）	参考文献や得られたデータに基づいて客観的で公平な解釈をおこなっているが、予想や仮説に一致しないデータは例外として除外している（6点）	結果の解釈そのものに歪曲はないが、自身の予想や仮説に一致するものだけを重要データと捉えている箇所がある（2点）	自身の予想や仮説に一致するものだけを報告している 結果の解釈そのものに歪曲がある
	C プレゼン能力（2割）	プレゼン技術	言葉遣いや声の大きさ、抑揚、話すスピード等が適切であり、他者に伝わるように工夫されている（10点）	話し方に工夫が感じられ、話している内容は概ね理解できるが、一部の専門用語に対する説明が不十分である（7点）	言葉遣いや声の大きさ、抑揚、話すスピード等が適切とは言えず、話している内容のかんりの部分が聞き取りにくい または、専門用語が多用され、他分野の研究者には理解が難しい（2点）	話している内容がほとんど聞き取れない 何が言いたいのかわからない
		発表時間	規定時間ジャスト～1分前に発表を終えた（3点）	規定時間の1分～2分前に発表を終えた（2点）	規定時間を2分～5分残して発表を終えた（1点）	規定時間を超えた 規定時間の5分以上前に発表を終えた
		スライド	結果をわかりやすく表現するために、適切な図表等が示されており、配色や文字の大きさなども見やすく工夫されている（7点）	文字が小さいなど見づらいものもあるが、結果をわかりやすく表現するために必要な図表等がおおよそ示されている（4点）	必要とはいえないスライドがあったり、逆に必要な図表が欠けているため、理解しにくい部分がある（1点）	結果を表現するために必要な図表等がほとんど示されていない
	D 論理的思考能力（2割）	論理性	質問の意図を正しく理解し、信頼できる根拠に基づいて論理的に回答している（15点）	回答の内容は信頼できる根拠に基づいた適切なものであるが、質問された内容と少しずれている（10点）	回答の内容の一部に論理の破綻がある 質問の意図に沿った回答をしているものの、根拠の信頼性に疑問が残る（5点）	回答の内容の大部分が非論理的である 回答が質問の意図に沿っていない
		即時応答力	質問終了後、即座に回答している（5点）	質問終了後、少し経ってから回答している（3点）	質問終了から応答開始までかなり時間がかかる（1点）	質問に答えられない

評価者は、本ルーブリック表で評価できないディプロマポリシーの観点を見逃しを最終評価に反映させて可否の投票を行う

評価日 年 月 日
評価者氏名